



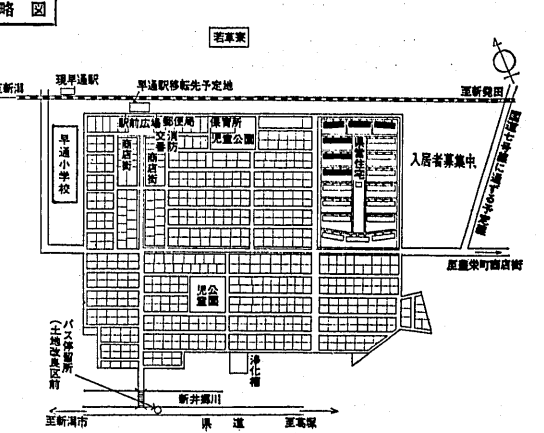
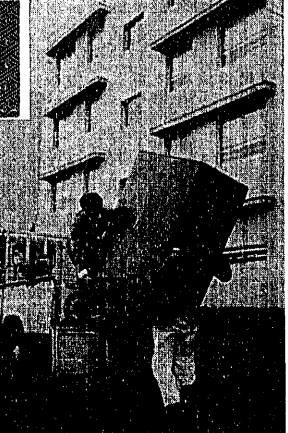
造成進む早通団地

県営住宅は第一陣入居

昨年秋から早通、弘十八年度までの間に、団地造成計画に沿って、児童公園が内側に、県営住宅二か所、保育所、郵便局、消防署、交番などが設けられることになっています。

早通団地は、現在の位置より東寄りに移転し、列車の交換体の整地工ができるように計画が進められています。これは、来年度のダイヤ改正時に実現させる予定で、実現すると、普通列車はすべて停車することになります。

駅前広場付近の幹線道路の工事などが進められています。団地の総面積は、二十四万五千五百平方メートルで、ここへ五年度の昭和四十八年度末までに県営住宅五百二十八戸、公社分譲住宅五百六十一戸、計一千八百九戸が建てられる計画です。完成すると県内最大規模の住宅団地が出現します。



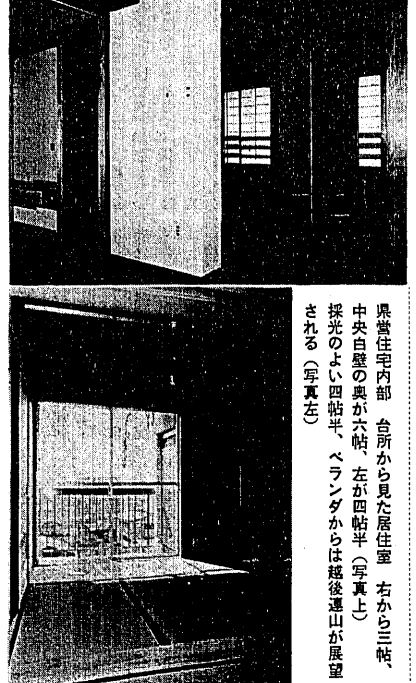
基づいて建設され、一日四千名以上の児童が増加することが予測されていますが、これは、十分に対処できる態勢にあります。

そのほか、今後、団地の人口の急増に伴って、小学校の増設も必要とされています。

県営住宅

取りなっています。家賃は、月額六千円と低額です。入居資格は、(一)同居の親族(配偶者も含む)があること、(二)入居しようとする世帯主の収入月額(扶養親族一人について月額三千元を控除)が二万四千円をこえ、四万円以下であること、(三)日本の国籍が、県内に住所が勤務先があることなどが必要とされています。

現在、四十六戸分の入居者の募集期間中です。なお、この県営アパートの管理は、県からの委託を受けて、町が管理にあたりますので、家賃の徴収や小規模の修繕などは、町の責任で行なうことになっています。



県営住宅内部 台所から見た居住室 右から三帖、中央白壁の奥が六帖、左が四帖半、ベランダからは稲後連山が展望される(写真左)

公社分譲住宅

住宅金融公庫融資付き

住宅金融公庫による分譲住宅は、県が営利を目的としないで、健全な価格で住宅を供給するために設立した特殊法人です。

分譲住宅は、昭和四十四年度に二百三戸、四十五年度から四十八年度までに三五八戸、計五百六十一戸が建てられる計画です。この分譲住宅は、(一)区画平均二〇〇平方メートル(約六〇坪)の宅地に、五〇〇平方メートル(約一五〇坪)から九九六平方メートル(約二九二坪)まで、希望に応じて自から居住する人で同居家族小規模から大規模までの多種類の規格の設計が用意されていて、分譲価格は、土地と住宅で二百六十八万円から四百三十八万円までおよそ二十種ほどあります。

分譲住宅の購入には、住宅金融公庫からの融資(木造百十坪、プレハブ百三十九坪、年利五分五厘、償還期間十八年、元利均等)が必ず受けられ、購入しやすいよう配慮されています。

分譲住宅の中込みには、(一)自から居住する人で同居家族小規模から大規模までの多種類の規格の設計が用意されていて、分譲価格は、土地と住宅で二百六十八万円から四百三十八万円までおよそ二十種ほどあります。

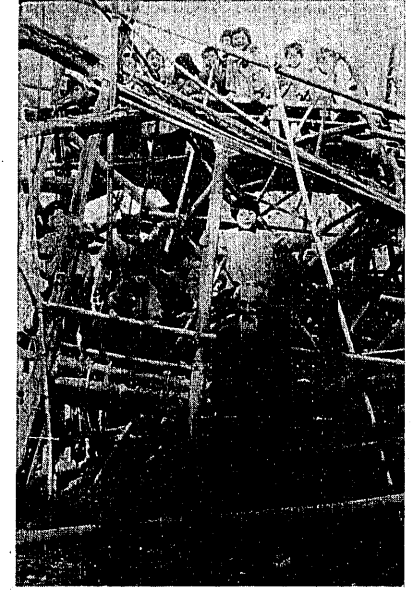
分譲住宅の購入には、住宅金融公庫からの融資(木造百十坪、プレハブ百三十九坪、年利五分五厘、償還期間十八年、元利均等)が必ず受けられ、購入しやすいよう配慮されています。

大迎の護山さん

保育所開いて三十八年

子どもたちに愛情を注ぐことが多く、農繁期になると母の保育から見られる子どもが多くなりました。これを見かねた護山さんは、御堂を解放して保育所を開設したのです。昭和六年四月のことです。

保育所の開設当時、護山さんは、賀川豊彦のキリスト教人道主義に基づき社会運動に関心を抱いていました。一方このころ大陸では、戦雲が急を告げていました。このため農家では、男手を多く大陸へ



護山さん考案のユニークなジャングルジムは、子どもたちのかっこうの遊び場。元気いっぱいの子どもたちと護山さん



(建築工事中の分譲住宅)

があること、(二)償還に必要な収入があること、(三)確定な保証人があることなどが条件とされています。

詳しいことを知りたい方は次のところへおたずねください。

県営住宅 県庁土木部建築課 (電三)五五一・一内線 五五五または五五四、町役場町民課厚生係(電七)三四〇一

分譲住宅 住宅供給公社(新潟駅前番町ビル内、電四七)三四六、町役場建設課建築係(電七)三四〇一

(一) 現金収入が少なく、保育料は米や卵でもらったため、経営は苦しかったそうです。仏事のお菓子は、全部子どもたちのおやつにかえたそうです。

保育所にあてた御堂は、子どもたちのために戸障子はこわれがち、雨ともなれば、子どもたちは、くり(車窓)にまで遊び、お寺は荒れがちだったそうです。当然僧家から苦情も出ましたが、そういう苦情には耳をかき、黙々と子どもたちの世話をしつづけた。

今まで世話になった子どもは、五百人を超え、最初の子どもは、四十歳を超えています。

親子旅行は、保育園生活最後の年に、母親と子どもを連れて、京都方面へ数日の日程で出かけるそうです。これは子どもの成長を、仏に感謝する目的で行なうそうです。しかし、この旅行は、数日間の団体生活で、母親が自分の子どもと他の子どもを比較して自分の子どもの長所や短所を知ることができ、思わぬ効果を上げているそうです。

とにかく護山さんは、子どもがかわいいです。名譽も財産にも目をくれず、子どもたちのために尽され、ボーイスカウトやガールスカウトでも活躍されました。昨年は、これらの功績により、知事表彰を受けられました。